

教育実習について

On Student Teaching

伊藤昭道 (Shodo ITO)

Two years ago, in this university, I gave a lecture on the subject of student teaching. Many of the students I lectured to at that time have taught as student teachers in junior high or high school this year. I want to know how they taught their students and what kinds of subjects they found. Therefore, I conducted a questionnaire survey, and I plan to analyze the responses and use the results in my lecture.

はじめに

筆者は本学に赴任し、「教育実習指導」を担当して2年目である。2006年度に指導した学生が、2007年度に教育実習を履修した。学生たちがどのように教育実習をしてきたか担当教員として気になるところである。例年、教育実習終了時に実施しているアンケートや実習記録簿等をもとに教育実習の状況を検討して、「教育実習指導」の講義に反映していきたいと考える。

1 教育実習履修者の現状及び実習校決定の過程

2007年度に教育実習を履修したものは226名いる。

教育実習の申し込みは3年次前期の早い時期に行う。教育実習申し込みの方法は原則としては母校に依頼するが、愛知県の公立中学校についてはやや複雑である。まず、名古屋市を除く公立中学校で実習を希望する場合、大学で希望学生を取りまとめ一括して愛知県教育委員会に申し込む。愛知県教育委員会においては学生の出身市町を管轄する教育事務所を經由して市町教育委員会へ振り分ける。市町村教育委員会では学生の出身校以外の中学校を実習校として指定する。

名古屋市立の中学校においては、家族が名古屋市に居住していること、名古屋市立中学校の出身であることなどの条件をつけて1大学7名受け入れという枠を設定している。実習希望者多数の場合は抽選など公平を期して7名に絞って名古屋市教育委員会に申し込みをする。7名の選に漏れた者は愛知県公立中学校での実習希望者として申し込みする。

県内の高等学校及び県外中学校・高等学校での実習希望者は出身学校に本人が出向いて依頼をする。受け入れ内諾を得た場合、学校から内諾書を大学に送付してもらう。各大学から一斉に依頼が集中するので、早めの依頼・申し込みをする必要がある。

2 教育実習アンケートについて

例年、教育実習終了時にアンケートを実施している。本年度は中学校で実施した者83名

に対して回答したものの64名(回収率76.2%)、高等学校で実施した者141名に対して回答したものの124名(回収率87.9%)であった。以下の各項目について集計して、教育実習の現状と課題を明らかにしたい。

(1)実習期間

教育実習の単位は教育職員免許法の規定により取得しようとする免許状に応じて定められている。中学校教員1種免許状の場合は4単位3週間、高等学校1種免許状の場合は2単位2週間である。高等学校で教育実習をする場合、原則として2週間であるが、3週間の実習を受け入れてくれる学校もある。4週間の実習をした者が3名いる。

表1 校種別実習期間(教育実習記録簿より)

期間・校種	中学校	高等学校	計
2週間	0	106(75.2%)	106(47.3%)
3週間	80(96.4%)	35(24.8%)	115(51.4%)
4週間	3(3.6%)	0	3(1.3%)
計	83(100%)	141(100%)	224(100%)

(2)配当学年

教育実習終了時に回収したアンケート 中学校64名(回収率76%)、高等学校124名(回収率87.9%)の集計結果は以下の通りである。(2)以下各項目はこの数字による。

表2 配当学年

配当学年・校種	中学校	高等学校	計
第1学年	25(39.1%)	61(49.2%)	86(45.7%)
第2学年	23(35.9%)	45(36.3%)	68(36.2%)
第3学年	16(25.0%)	18(14.5%)	34(18.1%)
計	64(100%)	124(100%)	188(100%)

中学校、高等学校とも第1学年への配当が多い。中学校、高等学校とも第3学年は進路指導(進学)から配当を控えていることが窺える。

(3)授業実習について

教育実習のうちの授業実習(教壇実習)についてのアンケート集計は以下の通りである。

表3 授業実習時間数

校種・時間数	1~5時間	6~10時間	11~15時間	16~20時間	21~25時間	26~30時間	計
中学校	12(18.8%)	35(54.7%)	10(15.6%)	5(7.8%)	2(3.1%)	0	64(100%)
高等学校	42(33.9%)	54(43.6%)	16(12.9%)	4(3.2%)	3(2.4%)	5(4.0%)	124(100%)
計	54(28.7%)	89(47.3%)	26(13.8%)	9(4.8%)	5(2.7%)	5(2.7%)	188(100%)

実習生の数が最も多いのは中学校、高等学校とも6~10時間である。次が1~5時間である。最多時間数は高等学校の26~30時間の5名である。内訳は30時間(3週間)1名、28時間(3

週間)1名、27時間(2週間)1名、26時間2名(2週間、3週間)である。同じ単元をいくつかのクラスで実習していると思われるが、授業の結果を反省し、次クラスの授業に反省を生かし更に工夫を加えるということになるとかなり忙しい。また、2週間で26時間の授業は現職の高等学校教諭の担当コマ数に近い。十分に時間をかけて学習指導案を練って授業実習に取り組ませてほしいところである。

(4)教科以外の実習

教育実習は授業実習に重点が置かれていることは言うまでもないが、教育現場の実情を理解させるために教科外活動すなわち特別活動、学級会・ホームルーム、生活指導、生徒指導、道徳、部活動に参加させている。教科以外の担当としては次の表の通りである。

表4 教科外活動

内 容 ・ 校 種	中学校	高等学校	合 計
S T	49(76.6%)	107(86.3%)	156(83.0%)
部活動・クラブ活動	46(71.9%)	58(46.8%)	104(55.3%)
学級会・ホームルーム	31(48.8%)	52(41.9%)	83(44.1%)
道 徳	45(70.3%)	—	45
給食指導	45(70.3%)	3(2.4%)	48(25.5%)
清掃指導	58(90.6%)	108(87.1%)	166(88.3%)
学級事務	28(43.8%)	31(25.0%)	59(31.4%)
実習生数	64	124	188

なかでも、朝と帰りのショートタイムと清掃指導は中学校、高等学校とも高率で参加している。ショートタイムについては中・高平均で83%が参加している。実習2日目頃から教壇に立ち、僅か10分間であるが、その間にクラスの生徒の様子を把握し連絡事項を正確に伝えることの難しさを実感する。教職の難しさを垣間見る。

次に清掃指導に中・高で90%近い実習生が参加する。ここでは、授業以外の生徒の様子を観察することができる。また、生活指導を経験する。教師として生徒を指導し、指示し、注意をしなければならない場面に遭遇する。多くの実習生は、指示し注意をすることに戸惑い、どのようにしたらよいか悩む。

さらに、中学校の実習では「道徳の時間」の指導を経験する。「道徳の時間」は望ましい価値観の形成、望ましい行動、自らの生き方を考えさせる内容であり、教科指導とは違う難しさがある。生徒の生活に即してどんな主題を設定するか難しい。大学で「道徳指導法」を学んでいるが、どう指導を展開したらよいか大変悩む。

(5)勤務時間について

ア出勤時刻について

出勤時刻については、通常の出勤時刻と最も早く出勤した時刻を調べた。

① 通常の出勤時刻

通常の出勤時刻については中学校と高等学校ではピークに 30 分前後の違いがある。

表 5 通常の出勤時刻

校種	時刻	～6:59	7:00～	7:30～7:59	8:00～8:30	合計
中学校	64	0	11(17.2%)	31(48.4%)	22(34.4%)	64(100%)
高等学校	124	0	14(11.3%)	45(36.3%)	64(52.4%)	124(100%)
合計		0	25(13.3%)	76(40.4%)	86(46.3%)	188(100%)

中学校と高等学校の勤務の違いを反映している。午前 7 時過ぎにはもう出勤しているという生活パターンは実習生にとって随分大変であろう。

② 最も早い出勤時刻

通常より早く出勤するのは、授業実習の仕上げの研究授業の当日が多いと考えられる。これについても、中学校、高等学校とも通常より 30 分前後早く出勤する傾向がある。7 時前に出勤するものが中学校、高等学校とも数名いる。

イ 退出時刻について

① 通常の退出時刻について

退出時刻について、通常の退出時刻と最も遅い退出時刻について調べた。

表 6 通常の退出時刻(中学校)

校種	時刻	～16:59	17:00～17:29	17:30～17:59	18:00～18:29	18:30～18:59	19:00～19:29
中学校 64 名		1(1.6%)	0(0%)	0(0%)	9(14.1%)	1(1.6%)	21(32.8%)
		19:30～19:59	20:00～20:29	20:30～20:59	21:00～21:59	22:00～23:00	
		6(9.4%)	14(21.8%)	3(4.7%)	6(9.4%)	3(4.7%)	

(高等学校)

校種	時刻	～16:59	17:00～17:29	17:30～17:59	18:00～18:29	18:30～18:59	19:00～19:29
高等学校 124 名		0 (0%)	6(4.1%)	1(0.8%)	32(25.8%)	8(6.5%)	49(39.6%)
		19:30～19:59	20:00～20:29	20:30～20:59	21:00～21:59	22:00～23:00	
		3(2.4%)	18(14.5%)	4(3.2%)	3(2.4%)	0(0%)	

中学校、高等学校とも最多の退出時刻は 19:00～19:29 の時刻帯である。中学校では 22 時台退出の実習生が 3 名いるが、高等学校では 21 時台には全員退出している。

② 最も遅い退出時刻

中学校のピークは午後 9 時から 10 時の間、高等学校のピークは午後 8 時から 9 時の間である。午後 11 時以降の退出は中学校 11 名、高等学校 3 名であった。なお、中学校 23 時以降の退出者 11 名のうち 2 名は 24 時 30 分前後の退出である。研究授業の前日が最も遅い退出になるとと思われる。帰宅が深夜になる場合、安全確保の意識の喚起が必要である。

ウ 在校時間

表 7 在校時間

校種\時刻	9時間~	10時間~	11時間~	12時間~	13時間~	14時間~	計
中学校	0(0%)	9(14.1%)	28(43.8%)	15(23.4%)	7(10.9%)	5(7.8%)	64(100%)
高等学校	8(6.5%)	26(21.0%)	58(46.7%)	24(19.3%)	8(6.5%)	0(0%)	124(100%)
合計	8(4.3%)	35(18.6%)	86(45.7%)	39(20.7%)	15(8.0%)	5(2.7%)	188(100%)

中学校、高等学校ともピークは11時間から12時間の間である。連日慣れない中で12時間以上の勤務が続くと睡眠時間が確保できず辛い。実習期間中睡眠時間が3~4時間だったと書いている学生が多かった。

(6)実習前に不安だったこと

教育の現場へ実習生として赴くことについて学生は大きな不安を感じている。不安の内容も取り越し苦労から自分の学力、性格までさまざまである。不安を解消してやる指導が必要である。

- 教員や生徒とうまくコミュニケーションを取れるか。 ○生徒の中に入れていけるか。
- 指導教員とよい関係を築けるか。人柄が気になる。 ○50分間の授業を時間を余らせること無くてできるか。 ○学習指導案をうまく書けるか。 ○知識不足、自分の学力に不安。
- 教科をきちんと指導できるか。 ○自分の専攻でない科目で実習をすることになった(高校で実習する学生に多い不安)。
- 人前に出ることが苦手で、緊張するのではないか。
- 荒れる中学校の現状の報道を見て不安になった。 ○最近の中学生の実態がよく分からない。 ○実習校での事前指導を受けてすぐ実習開始になったので準備ができなかった。

(7)教育実習でよかったこと

教職に就こうとする学生にとっては意欲を高める機会となった。自分の適性が見極められなかった学生にとっても視野を広める機会にはなったことであろう。

- 教えることで自分自身も勉強できた。 ○教師という立場に立ち指導する難しさや日々の業務の大変さを知ることができた。 ○仕事の厳しさと責任の大きさを知ることができた。 ○自分の欠点(改善すべき点)に気づくことができた。 ○授業実習を通して、改めて大学で自ら学び視野を拡げて感性を磨くことの大切さを知った。
 - 心と心でコミュニケーションを積極的にとっていきこうとする自分になれたこと。
- 等々多くの学生が教育実習をプラスの方向で振り返っていることは評価してもよい。

(8)実習中困ったこと

- 学習指導案の書き方が分からなかった。○指導教諭が多忙で殆ど指導してくれなかった。
- 指導教諭が毎日の教育実習記録簿に一日もコメントをくれなかったし、授業に対しても殆どアドバイスが無かったまま研究授業に臨んだ。 ○実習生への注意や指導が教員によって異なり、どの教員に従うべきか迷った。 ○授業準備のための資料探しに困った(高校は図書、雑誌等が少なく、ネット環境も整備されていない)。
- 指導教諭を人間的に尊敬できなかった。生徒に対する暴言、礼儀のなさ、態度の悪さに驚いた。3週間がとても辛かった。

○3年の公民を担当したが、一度も公民の授業を参観させて頂けず全ての公民の授業を受け持ったので授業の仕方が分からずとても困った。(同上の学生)

○担当教科について自分の知識の少なさ、勉強不足を痛感した。

○睡眠時間が確保できず、毎日3~4時間だった。

等々さまざまな記述が見られたが、一部の学校の指導教員の指導振りについて問題をはらんでいると言わざるを得ない。

(9)指導上特に注意されたこと

○授業では大きな声を出すように。

○時間厳守。 ○挨拶励行、言葉遣い、礼儀、身だしなみ、頭髪。

○実習生は生徒にとっては先生、大学生の気持ちではではない。

○生徒の個人情報の保護。 ○生徒とプライベートな交際をするな。

○授業では大きな声を出すように。 ○勤務時間の厳守。

○実習中就職活動禁止。

その他、実に細かいことを具体的にいろいろ注意を受けた様子が窺える。教育実習指導の中で繰り返し強調して指導したところである。

(10)大学で指導しておいてもらいたかったこと

○道徳の学習指導案の書き方、模擬授業。 ○学習指導案の作成。

○実習校に合わせた学習指導案の訓練が必要。

○教育実習記録簿の書き方(例文)。

○教員採用試験の期日を教えてほしい。

ここでは、道徳の時間の指導に関するものと学習指導案の作成に関するものが多かった。道徳の時間の指導については、1年次の道徳指導法で詳しく指導するが、実習まで丸2年という期間がある。他の教科教育法の授業でも、実習の直前に設定されているわけではないので、現状では学生自ら講義資料を読み返したり参考資料を探すなどの努力をすべきである。ただ、教育実習指導の授業の中改善できる部分もある。

学習指導案については、各教科教育法で基本的な事項は指導されているはずである。実習校で指導教員の指導を受けながら苦労して作成するものである。学生の記述を読むと、お膳立てをしてもらわないとどうしてよいか分からない、例文を示してもらわないとどう書いてよいか分からない、細かく指示してもらわないとどうしてよいか分からないという大学生気質を感じる。

(11)教育実習を通して教職の適性や志望についてどう思うか

中学校へ実習に行った学生は6割が教員への志望動機を高めた。高等学校へ行った学生では5割が教職に自信が持てない、別の進路を考えると回答している。教員志望は4割半ばであった。中・高通して5割近くが教育実習を経験して教職の適性について判断に迷ったり、別の進路を模索し始めるという現実がある。

表 8 教職への志望

校種	項目	志望動機が高まった	別の進路へ	判断つきかねる	合計
中学校		39(60.9%)	18(28.2%)	7(10.9%)	64(100%)
高等学校		57(46.0%)	61(49.2%)	6(4.8%)	124(100%)
合計		96(51.1%)	79(42.0%)	13(6.9%)	188(100%)

教育実習は教員志望の学生を受け入れるというのが各学校の基本的な考えである。この結果は問題をはらんでいると言わざるを得ない。

3 教育実習記録簿について

教育実習生全員の教育実習記録簿に目を通した。教育実習指導の授業の中で記録簿の雛形を配布し詳しく指導したにも拘らず、①誓約書を実習校に提出していない。②誤字が多い。③文章が拙い。④累計の間違い「累計」の意味が分かっていない。これらのことは決して難しいことではない。さらに、毎日の記録欄に何を書くか分からないという学生がいた。

4 教員採用試験の現状

教務課作成の教育実習生アンケート調査がによると 2008 年採用試験の受検状況は次の通りである。上記 2(11)で述べたところと大体一致する。

表 9 教員採用試験受検状況

受検した	110(51.9%)
受検しなかった	102(48.1%)
合計	212(100%)

受検状況

公立のみ受検	96(45.3%)
公立と私学適性を受検	6(2.8%)
私学適性のみ受検	8(3.8%)
受検しなかった	102(48.1%)
合計	212(100%)

公立／私立適性受検者比率

まとめ

教育現場は多忙化と生徒の多様化による指導の困難さの増大にともない教員には余裕が無い。にもかかわらず、教育実習を受け入れるのは教育現場にとって人材育成は自分たちの問題でもあるからである。その観点から教員採用試験受検を条件として教育実習を受け入れている。指導教諭は実に熱心に丁寧に実習生の指導をしてくれている。表 9 の受検状況を見ると、半数近い者が教育実習校と指導教諭の期待に答えていないことになる。いずれは教育実習履修を厳格化していくことは避けられない。

参考資料

- 1) アンケート『平成 19 年度教育実習を終えて』（教育実習担当教員による）
- 2) 『教育実習アンケート』（教務課教職担当作成・実施）
- 3) 教育実習記録簿
- 4) 教育実習訪問指導報告書